

◎景気ウォッチャー調査[2020年5月]

2020年5月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を10.3ポイント上回る18.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなっている」、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「来客数は増えていないが、買上単価や買上数量は増加している。」(スーパー)、「建て売り物件の申込みが増加傾向にある。」(住宅販売会社)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を12.3ポイント上回る21.1となった。

企業動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスの影響で状況は良くないが、以前よりは良くなっている。」(輸送用機械器具製造業)、「宅配便は外出自粛の広がりですべてネット通販の巣籠り需要が増加している。法人は、休業やテレワークで企業間の流動が減少しているが、個人に販路を求めた企業の発送は増加している。また、外出自粛による在宅率の上昇で生産性も向上している。母の日はこれまでにないほどの需要となっている。」(輸送業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を4.3ポイント上回る13.2となった。

雇用関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少したため、前月を7.5ポイント上回る13.3となった。

	5月	4月	前月差
合計	18.8	8.5	10.3
家計動向関連	21.1	8.8	12.3
企業動向関連	13.2	8.9	4.3
雇用関連 (参考値)	13.3	5.8	7.5

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を19.8ポイント上回る35.8となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「今夏の猛暑が予想されていることや定額給付金の効果で景気は良くなる。」(家電量販店)、「今月は休館中だが、緊急事態宣言が解除されると徐々にではあるが回復する。」(都市型ホテル)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を19.5ポイント上回る37.0となった。

企業動向関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「主要客による連絡会で2~3か月先の生産量は回復基調となるという報告があったため、今後景気は良くなる。」(輸送用機械器具製造業)、「データセンター利用の需要はあらかじめ、前年度から計画がされたものであり、新型コロナウイルスの影響が落ち着けば、需要も少しずつ持ち直してくる。ICTやIoTに関する興味はなくなるものでないため、一気に火がつく可能性がある。」(通信業)等の理由から、「良くなる」、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を18.6ポイント上回る33.1となった。

雇用関連は、「悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルスも第1波は終息に向かっており、しばらくすると人やモノの往来が始まりそうである。身近な飲食店やスポーツジムなどの営業が再開し始め、中止していたイベントも規模を縮小しつつも開催のめどが立ってきているので、景気は徐々に上向いていく」(民間職業紹介機関)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を27.5ポイント上回る33.3となった。

	5月	4月	前月差
合計	35.8	16.0	19.8
家計動向関連	37.0	17.5	19.5
企業動向関連	33.1	14.5	18.6
雇用関連 (参考値)	33.3	5.8	27.5